

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

この科目は、保育実習Ⅳ（施設）のための科目である。保育実習Ⅱでの経験を踏まえて、実習のための基礎知識の講義や演習、事例研究等を行う。事前指導では社会福祉施設・機関で利用者や利用者家族へ相談援助の実務経験がある教員を中心に、社会福祉施設における実習の目的や内容、実習を行う上での心構えやマナーをはじめ、施設の種別ごとに実習の概要を指導する。施設の種別は幅が広いので、共通する知識の講義とともに、必要に応じて実習施設の種別ごとにグループに分けて授業を行う。事後指導では実習での学びを振り返り、社会福祉施設で行われる支援への理解を深め、自身の支援者としての課題を自覚できるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	保育実習Ⅱの課題と反省
第 3 回	児童福祉法・障害者総合支援法と施設 ー実習施設の根拠法の理解ー
第 4 回	児童養護施設・障害者支援施設について ー実習施設の概要の理解ー
第 5 回	施設種別の理解と演習① ー社会福祉施設と保育士の役割ー
第 6 回	施設種別の理解と演習② ー相談援助の進め方ー
第 7 回	事例研究 ー利用者へのかかわり方を具体的に考えるー
第 8 回	実習日誌の書き方①
第 9 回	実習日誌の書き方②
第 10 回	実習日誌の書き方③
第 11 回	実習日誌の書き方④
第 12 回	実習目標と個別支援計画について ー相談援助の視点をふまえてー
第 13 回	実習直前指導
第 14 回	施設実習の反省と評価
第 15 回	施設実習のまとめと今後の課題
第 16 回	総まとめ

到達目標

- ・実習施設で行われている支援を理解し、利用者に適切にかかわれるようになる。
- ・人権の尊重、自立支援、利用者の自己決定、秘密保持等、相談援助のポイントを理解する。
- ・社会福祉施設の意義、社会における役割を理解し、社会福祉現場における相談援助について理解する。
- ・実習日誌を円滑に記入できるようになる。

履修上の注意

欠席をしないこと。やむをえず欠席する場合は、必ず連絡をすること。課題は必ず提出すること
連絡なく欠席をした場合、実習を中止することもある。
外部講師を招へいして授業を行う場合がある。

予習・復習

予習として、社会福祉政策や社会福祉施設の動向について、日常的に関心を持つこと。
復習として授業プリントをよく整理すること。

評価方法

授業態度 10%、課題の提出状況 30%と内容 60% を基準に総合的に判断して評価する。
授業や授業課題にどのように取り組んだかが重要となる。

テキスト

- ・教科書名：より深く理解できる施設実習 ー施設種別の計画と記録の書き方ー
- ・著者名：藤 京子（著）、中島 健一朗（著）、増南 太志（著）、松本 峰雄（監修）
- ・出版社名：萌文書林
- ・出版年（ISBN）：2020年（978-4-89347-221-2）